

2013年度動物看護師統一認定試験（マークシート方式）合格発表

受験者数：3,798人

平均点：94点（140点満点）（67.1%）

合格者数：2,742人（84点（正解率60%）以上）

合格率：72.2%

2月16日（日）、全国11会場で動物看護師統一認定機構主催のマークシート方式試験を実施いたしました。2月14日から降り続いた大雪により、250名を越える方々が試験会場に向かうことができず、代替試験（再試験）の対象者になりました。代替試験（再試験）は、3月23日（日）、及び6月22日（日）に行います。

今回の受験者は昨年の受験者4,660人より860人余少ない3,798人でした。合格ラインについて、正解率60%（140点満点の84点）以上を「合格」にすることはすでに決定しており、かねてより公表していました。この時点での合格者は2,640人（合格率69.5%）でした。

しかし、実地筆答問題の間13の「経ロゾンデ」（正答率20.8%）は、犬や猫で用いることはほとんどなく、ハムスターやモルモットなどの小動物に用いられるケースが多く、胃内への投薬や給餌に使用します（正解は②）。また、間17の「膀胱の陰性造影」の問題の正解は「⑤空気」です（正答率16.4%）。この間13と間17は正答率が低く、いわゆる「難題」であったかも知れません。したがって、この2問を全員正解としました。

その修正の結果、合格者は2,742人になりました（合格率72.2%）。

昨年のマークシート方式・CBT方式試験を合わせた合格率81.2%より、かなり低くなりました。昨年は、正答率の低い問題を多く削除し、合格ラインの修正を施しましたが、決して好ましいことではありません。批判もあり、また深い反省から、『何（どこ）から出題したか』を明確にするために、狭い範囲から問題を選ぶことになり、受験者には不公平感を与えてしまいました。心からお詫び申し上げます。しかし、事前に問題が漏れるようことは断じてありませんでした。

また、一般筆答問題のうち、正答率の低かった間2「ホルモンとその分泌器官の組み合わせ」（正解は③）について、正しくマークできないのは、「ホルモンとは何か」について、正確に学

んでいないことが考えられます。生体のホメオスタシスは神経系とホルモンなど液性系の2つの機構で維持されています(正答率 24.4%)。きわめて重要な問題です。皆さんのさらなる精進を願ってやみません。

高等学校や大学など入学試験の問題は、いわゆる「教科書」から出題されます。残念ながら、動物看護学分野は、こうした教科書が未整備な状態です。動物看護師統一認定機構は「出題範囲」を公表しています。「出題範囲」を網羅した参考書はいくつか出版されています。是非、参考にしてください。

試験運営小委員会座長(副機構長)

太田光明(麻布大学獣医学部教授)